



# ~ In My Life ~

キャリアの中の色褪せない場面シリーズ Vol.5

“わからない時は過去に聞く”

「学び」の出発点であり新しい発見のきっかけとなる過去の出来事。

今を支える「大切な過去の経験」を共有し、仕事を始める人も広げる人にも問題解決や展開のアイデアにしていきたい。



うこん なおこ  
右近 直子 NSCA-CPT、認定検定員、

管理栄養士

所属：京都文教短期大学

活動地域：学内での学生指導

教育を通じて分野間の架け橋となる

**Q1. 最初に大学職員として、どのような仕事(活動)をされていますか？ また、大学職員に就かれたきっかけや一般でいう就職活動との違いなど教えてください**

**右近** 正式には実習職員という立場でして、実習・演習授業の補助として携わっています。ライフデザイン学科という衣食住に運動と福祉・医療を学べる学科に所属しています。様々な授業が開講されており、トレーニングや応急手当実習、調理実習などは、取得している資格を活かしながら指導をしています。他には、インテリアやパソコン関係の授業などにも携わっています。

私は高校卒業後、スポーツトレーナーを目指し専門学校に進みました。学んでいくなかで、スポーツにかかわる多様な働き方があることを知りました。その後、栄養士を取得したいと思い、弊学の栄養士課程に進学しました。そのときの恩師に声をかけていただき、今の仕事に就くことになりました。そのときはすでにNSCA-CPTを取得していましたし、栄養士も卒業と同時に取得予定だったため、多分野を学べるという学科の内容とマッチし、お声が

けいただいたのかなと思っています。

また、関西地域のアシスタントディレクターや認定検定員としてNSCAジャパンの活動もしています。

**Q2. 右近さんがこれまでを振り返りどのような経験をされてきましたか？**

・実習職員として活動を始めた時期

**右近** 専門学校時代にトレーニングを勉強するなかで、栄養のことは切っても切り離せない分野でした。基礎的な栄養の授業もありましたが、もっと栄養の知識を深めたいと思い、栄養士課程に進みました。栄養士としての勉強を深めていくにつれ、トレーニングの専門家、栄養の専門家のどちらかだけではなく、どちらも両立をして自分自身を高めたいと思うようになりました。両方を知っているからこそ発信できることがありますし、それぞれ分野間の架け橋としての役割も担えると思っています。

短期大学を卒業後、すぐに実習職員として入職しました。今は雇用形態が変わり、トレーナーやトレーニングコーチとしての活動はしていませんが、当時はスポーツ現場での活動も続

けたかったため、朝から夕方までは実習職員として大学で勤務し、それ以外の時間を利用して、女子サッカーのクラブチームのトレーナーとして働いていました。

サッカーチームと並行している間は過密なスケジュールだったため、なかなかセミナーなどに参加することができませんでした。目の前の業務に必死で、自身の指導技術を振り返ることが少なく、今思うと、自己研鑽が足りず、学生や選手に対して自責の念を感じます。

その後、レベルI検定や認定検定員検定などにチャレンジし、自身が指導を受けることで感じることで、自分との違いや新たな発見を知ること、それらが今の自分自身の指導につながっていると感じています。

・現在の仕事の心境について

学生の中には運動指導者としての進路を考えている学生もいます。仕事としてやっていくことへの不安や迷い、学生の悩みも様々あります。そのようなときは「やりたいのであれば、チャレンジしてみたら？」と声をかけています。チャレンジしてみても知ること、

学ぶこと、新たな出会いやチャンスなど、私自身がそうだったように、多くのものを得られた経験からそのような話をします。と同時に、他の職種と同様に業務内容や待遇がきちんと整備され、スポーツにかかわるこの業界がさらに発展するよう尽力していきたいと強く思います。その思いは、大学やNSCAジャパンの活動のなかでつなげていきたいです。

### Q3. 活動される中でやりがいを感じる場面や感謝(ご自身でも、相手からでも)を感じる場面はどんな場面ですか？

**右近** 授業では資格や就職に関係なく、運動関係について学ぶ学生もいます。生活のなかに身近に運動を取り入れ、人生を通して健康に生き生きと暮らしていくためにも、運動やトレーニングの有用性や楽しさを感じてもらえたら、と思っています。

また、この仕事は教育と現場の架け橋でもあります。学生が変化し成長していく過程を近くで感じることができます。多くの学生が社会に出る前の準備をしていくのですが、教育と現場とをつなぐ架け橋としての支援ができることも、この仕事のやりがいだと思います。

### Q4. 現在の職業に至るまでにどのような方との出会いがありましたか？

**右近** たくさんの方々との出会いがありました。自分のキャリアを振り返った際に、2人の恩師との大きな出会いがありました。

専門学校時代にトレーニングを教えてくださいました吉田直人先生です。授業のなかで、トレーニング初心者の私に丁寧に教えてくださいました。S&C

コーチという職業を知るきっかけも吉田先生との出会いです。自分が飛び込みたい世界で仕事をされている先生は当時の憧れでしたし、今も目標とさせていただきます。

次に、出会いは偶然でしたが、専門学校時代にNSCA-CPTの受験対策講座を受けに行き、その会場責任者としていらっしゃったのが、森井秀樹先生です。その際、栄養の勉強がしたい旨を相談させていただきました。それをきっかけに、会場校であった弊社に入学し、後に入職することとなりました。休み時間や放課後に研究室を訪ね質問をしたり、たくさんある専門書を拝読させていただきました。その当時から変わらずご指導いただいていることにとっても感謝をしています。

### Q5. 最後になりますが、今後、右近さんのような活動を目指している方へアドバイスをお願いします。

**右近** この仕事の魅力は、異分野で得

られたことを融合させ、さらに知識や経験を積み重ねていくことで、学生と共に、自分自身も成長させていただける環境です。選手やクライアントに直接指導をするわけではありません。しかし微力ではありますが、学生を通じて間接的に日本のスポーツ業界の発展に尽力できることにやりがいを感じています。アドバイスをするような立場ではないですが、行動を起こしてチャレンジすることで、多くの方と出会うことができました。ここまでの道は自分で切り開いたというよりも、人との出会いやつながりから導いていただいたと思っています。

NSCAジャパンには、S&Cコーチやパーソナルトレーナーだけでなく、多分野の方が会員にいらっしゃいますし、そこが素晴らしいと思っています。そのなかで多分野間の架け橋となれるよう、今後も精進したいと思います。



これまでチャレンジしてきたこと、学んできたことを活かし、短期大学の職員として学生の指導にあたっています。進路に関する相談も多いです。